

令和元年度 県立美術館協議会 会議概要

1 開催日時及び場所

日時：令和元年9月3日（火） 午後1時30分から午後3時30分まで

場所：県立美術館3階会議室

2 出席者

委員9名、事務局等11名、計20名

3 議題

- ① 平成30年度事業実施結果及び令和元年度事業実施計画・状況について
- ② 宮崎県立美術館運営ビジョンに基づく評価について

4 質疑応答及び協議

事務局から、各議題について説明等を行った後、次のような質疑応答、協議が行われた。

【運営ビジョン評価の内部評価の内容について】

○委員

（1）収集・保存の①作品の購入及び寄贈作品の受入について、現状の基金の残額が約2億4000万円ということだが、質の良い、特にシュルレアリスムの作品を購入しようと思ったら、1点ではるかに超えてしまう金額であり、近年の美術作品の高騰もあって難しい金額である。

予算を増やすための提案などはしているのか。

○事務局

空調設備の老朽化対策など予算要求を優先すべき課題が多く、美術品取得基金の積み増しを県費で行うことは現時点では厳しい。民間企業とのタイアップなど資金確保策を考えなければならないと思う。

○委員

（2）調査研究の①研究紀要の発行等について、印刷費が高騰し、製作が難しいことは分かるが、例えばPDFで公開するなど紙媒体以外は考えているのか。

○事務局

昨年度の研究成果は既にPDF化して美術館HP上にアップしている状況にある。紙媒体での紀要発行が本当に不要なのかの検討は再度内部で行いたい。データ化すれば製本費が浮き、手間もかからない。

○委員

(3) 展示の②特別展の開催について、個性のある自主企画展に取り組めていないところが残念に感じる。

さらに自主企画展の開催に合わせてカタログを発行することで、美術館の実績にもなる。

○事務局

来年度は自主企画展の開催を予定している。質量とも整ったカタログの作製は予算的に厳しいが、平成 29 年度に行った自主企画展「川崎毅×矢野静明展」で作製した小冊子のボリュームであれば費用的にも作製可能であるのではと考える。

○委員

(4) 人材育成について、今年度プロパーの学芸員を採用したが、今後も計画的な学芸員の採用を課題に含めていただきたい。

せっかく入った新しいプロパーの学芸員が燃え尽きないように、また、学芸の継続は美術館の本質的な問題なので、特に調査・研究が継続して回っていくような計画採用を考えていくべき。

○事務局

計画的なプロパー学芸員の採用については、県の人事担当主管課に今回の採用を実施する際にも要望している。職員採用については、単年度ごとに同主管課と協議を進めることがルールであり先々の採用は保障されるものではない。美術館の学芸員の必要性を説明しながら、コンスタントに採用ができるように今後も努める。

○委員

(5) 基本方針・教育普及の項目の①成人向け講座等の実施について、参加者数が目標に届かず、内部評価で C 評価だが、内容としては充実しているので、C 評価は厳しすぎるのではないか。

数値だけでなく客観的に見ることも大切では。

○事務局

参加者数等（人数）は評価を行う上での重要な根拠としているため、評価がぶれないように項目単位では厳しい評価となっている。ただし、基本方針・教育普及という大きいくりでは、その他の項目の評価及び内容の充実度などを総合的に見て総合評価 B としているものである。

「平成 30 年度実績に係る宮崎県美術館運営状況評価」（委員総意による外部評価）

- (1) 収集・保存 . . . A で承認
- (2) 調査研究 . . . B で承認
- (3) 展示 . . . B で承認
- (4) 教育普及 . . . B で承認
- (5) 広報・発信 . . . B で承認
- (6) 連携・参画 . . . B で承認
- (7) 人材育成 . . . A で承認
- (8) 管理・運営 . . . B で承認

管理・運営の美術館の取り組みは十分になされているが、作品保全等のための施設・設備維持補修予算の確保に一層の努力をされたい。

【その他】

○委員

一年を通して楽しく、子どもも喜ぶような企画が多かった。

藤城展では、空港にステンドグラス作品が設置されることで、美術が生活に近く、楽しめるものになったのが良かった。

空港と美術館のやり取りは、どのような形で進められたのか。

○事務局

藤城事務所から、宮崎で展覧会をしたいという意向があり、空港ビルと話が進み、美術館も協議に入ってやり取りがなされた。

最終的には、ステンドグラスの公開に合わせて展覧会場を提供することになった。